

氏名	千葉真希子	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	母性看護学、助産学、国際医療協力				
学位	修士（国際医療協力）				
学歴	2002年茨城県立大学保健医療学部看護学科卒業、2006年千葉県医療技術大学校助産学科卒業、2016年杏林大学大学院国際協力研究科国際医療協力専攻博士前期課程修了				
経歴	2002年茨城県立こども病院入職、2006年千葉県済生会習志野病院入職、2011年独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊派遣、2016年日本看護協会健康政策部助産師課入職、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教着任				
所属学会（役職）	日本助産学会、日本看護管理学会、日本母性衛生学会、日本母性看護学会、国際保健医療学会				

【2020年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	A縣市町村保健師の在日外国人に向けた母子保健サービス情報提供の実態と保健師の認識	共同	第61回日本母性衛生学会学術集会	○千葉真希子、鈴木幸子	2020.10.9-10	
2	Web会議ツールを活用した妊産褥婦に対する遠隔実習の実践	共同	第35回日本助産学会学術集会	○森田 亜希子、鈴木 幸子、兼宗 美幸、東原 亜希子、千葉 真希子、山本 英子、齋藤 未希、浅井 宏美、齋藤 恵子、青木 恭子	2021.3.20-21	
3	助産学生対象の新生児ケアの演習におけるCOVID-19感染対策および教育上の工夫	共同	第35回日本助産学会学術集会	○浅井宏美、山本英子、東原亜希子、森田亜希子、兼宗美幸、青木恭子、千葉真希子、齋藤未希、齋藤恵子、鈴木幸子	2021.3.20-21	
4	分娩介助実習前の ICTを活用した遠隔授業と COVID-19感染対策を講じた演習の工夫	共同	第35回日本助産学会学術集会	○東原 亜希子、兼宗 美幸、青木 恭子、森田 亜希子、浅井 宏美、齋藤 恵子、齋藤 未希、千葉 真希子、鈴木 幸子	2021.3.20-21	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称		研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	助産業務管理	○	5	科目責任者として、web会議ツールを使用した遠隔講義のなかで、これまでの学習の総まとめや国家試験対策等を意識した知識の定着が図れるよう講義担当者と相談した講義構成とした。また、投票機能等の利用により学生の考えや理解度を視覚化することで学生同士の考えの共有やフォローアップを行った。		
(2) 演習						
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	分娩期のケア		24	遠隔の演習のなかで学生が各演習の目標が達成できるよう、また、学内演習や自己練習等の担当では臨地実習等の実践をイメージしながら演習できるよう、演習担当および補佐を行った。		

2	母性看護学Ⅱ		13	講義全体の補佐として講義・演習の補佐及び担当を行った。演習では遠隔で模型などを使用できない中で自宅にあるものや自身の身体の触診で生理の理解を促せるよう工夫を行った。
3	周産期のケア		19	遠隔でのグループワークなどを中心に、学生が集団の特性を捉えた指導案作成および実施に結びつくように補助等を担当した。演習においては、短期間に集約した演習の中で実習に結びつくように演習補佐を中心におこなった。
<b>(3) 実習</b>				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	母性看護学実習		2020.5～2020.6 (うち7週間)	遠隔実習の限界のなかで学生が母性看護学の特徴である褥婦や新生児への看護を学べるよう、科目責任者と調整しながら指導やカンファレンスを行った。
2	総合実習		2020.7	4年次生を対象に、産科病棟および外来において実習指導を行い、学生が妊娠中から退院後の生活がイメージをもてるように関わった。
3	助産学実習Ⅱ		・分娩介助： 2020.8～9月	4年次生を対象に、分娩介助実習では情報の整理とアセスメントを活かした実践ができるよう、臨床指導者との調整に努めた。
4	IPW実習		2020.10 (1週間)	4年次生を対象に、異なる専門等の学生がそれぞれの視点を活かしながら自主的に実習ができるように紙面事例の展開をしながらサポートを行った。
<b>(4) 論文指導</b>				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文		主指導 0名	副指導 1名
2	修士論文		主指導（指導教員） 0名	副指導（指導補助教員） 0名
3	博士論文		主指導（指導教員） 0名	副指導（指導補助教員） 0名
<b>(5) その他</b>				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			
<b>4. 社会貢献活動</b>				
<b>(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師</b>				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	国際助産学	晃陽学園看護栄養専門学校	諸外国における助産師教育とその活動、世界の中での助産師の役割	2020.12
<b>(2) 国、自治体、学術団体等における委員等</b>				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	該当なし			
<b>(3) ジャーナリズムでの発言</b>				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
<b>(4) その他</b>				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	朝霞保健所	保健所におけるCOVID-19に関連した業務の応援	2021.1～2021.3
2	該当なし	埼玉県助産師会	各種公開研修などにおける遠隔開催の補助	2020.10～2021.1
<b>5. 学内運営</b>				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	就職支援プロジェクトにおいて、議事や各種ガイダンス等がスムーズに進むように補佐を行った。		2020.4～2021.3
2	学生支援	主に国際協力を旨とする編入生を含む3、4年生からの進路相談を延べ5回程度受けた。		2020.4～2020.10
<b>6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）</b>				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
<b>7. 特許の取得</b>				
	特許名	特許番号	登録年月	

1	該当なし	
8.	特記事項	